

2019年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	事業構想学群
学群(学部)長名	中田千彦

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	大教室での授業に際し、全学生に課する事前、事後学習を含め、十分な教育効果を挙げられているかについて検討する必要がある。
	理由	多人数の履修者がいる科目の担当教員から学習効果を測定する方法に課題があると感じる意見が少数ではあるが挙げられている。
②	課題	実学教育プログラムの充実に向けたさらなる考察が必要。
	理由	実学教育プログラムに関しては、専任教員の実務者としての知見を教育に展開する方法が様々に試行錯誤されている様子うかがえるが、現時点でその手法は開発途上の部分があると思われる記述が見られた。
③	課題	外部講師の活用の意義や、その意味について、十分に共有がされていない。
	理由	客員教授などの称号もある魅力的な外部講師の招聘が数多く行われ教育の充実に貢献しているが、その効果が学内の学習の充実に限定されてしまうケースが少なくない。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	学群全体の科目について、多人数の授業運営において教育効果を見極める方法の洗練が必要と考えられるが、2020年度に導入した遠隔授業システムとポータルサービスなどを融合することによって、オンデマンドの教材の活用、反転授業の実施検討、新たな学習成果の評価方法の開発、導入などによって、従前の検討、改善方法にはない教育プログラムの展開が期待できる。
②	2020年度に実施された実学教育プログラムとして認められる科目の要件の再確認の中で、複数教員が担当する科目の全ての教員が実学教員であることが定義されたが、実学教育そのものが全て実務に従事する教員による実施を前提とすると、大学教育の中での授業プログラムの多様性や多面性を肯定しにくくなる可能性も感じられる。科目の定義に限らず、学生に充実した授業を提供することが学群の使命であると考えているので、定義そのものにこだわる必要がないと考えるが、実学教育プログラムとうたう限りにおいては、その意味、意義について再確認、再検証は必要であると感じた。
③	外部講師の招聘は、当然ながら本学の学生の学習の充実に資するものとして行われることが基本であるが、学外にその情報を発信、授業の公開などを行うことで、本学の教育力、教育内容の充実に広く分かち合える貴重な機会と考えられる。学群単位でプロモーションをかけることもあるが、科目担当の教員個人にその役割を担っていただかなければならないことも多く、残念ながら効率的に情報発信や公開することに困難が生じることも少なくない。折角の機会であることから、本学の教育力、教育内容のアピールにつながる手段を考えられないか、是非広報担当とも検討を進めて行きたい。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ・(大教室での講義において) TAの活用も含め、授業中並びに事後の指導を充実させたい。
- ・学生からの要望(配布資料、投影画像の内容など)に対してきめ細かく臨機応変に対応し授業内容を改善。
- ・eラーニングの活用に積極的に取り組む姿勢が多く見られた。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

- ・(各授業ごとに課する筆記課題において) 短期的な記憶に頼るような学修とならないよう課題の出し方に工夫をするなどの改善が示され十分な理解を深めるための改善が行われている。